論文 学会誌『電子キーボード音楽研究2018（Journal of the Japan Electronic Keyboard Society）』

タイトル

―必要ならサブタイトル―

姓名

|  |
| --- |
| 【要旨】要旨は800字以内、MS明朝9ポイント。数字と英字が半角の場合はTimes New RomanとまたはCenturyとするが、ハイフンを含む場合は印刷上Times New Romanが望ましい。Centuryの場合はハイフンがElectronic-Keyboardとなりハイフンが中心より上部になる。Times New Romanの場合はハイフンがElectronic-Keyboardとなりハイフンが中心となるためである。目安として、300字の場合は6行、600字の場合は12行、800字の場合は16行となる。要旨の次の行へキーワードを記載する。キーワードは文献検索の対象となる。「キーワード」はゴシック体とし、以下「：〇〇〇〇 ▽▽▽▽ ◇◇◇◇」は明朝体とする。5個程度とし、複数の際は区切る。フォントとポイントは要旨に準ずる。グレーマーカー部分は確認後、削除のこと。キーワード：  |

Ⅰ. はじめに

１．本誌について

「電子キーボード音楽研究」は電子キーボードを用いた音楽の演奏、創作、教育等に関係するものとする。その中で論文は査読論文となる。詳細はホームページの学会誌投稿規程（一部改正）をご参照の上、事務局までお問い合わせください。

申込締切：5月末　原稿締切：8月末

２．投稿の種別および字数

電子キーボードを用いた音楽の演奏、創作、教育等に関する研究論文（20,000字以内）。

楽譜、図版、表、要旨などすべて含めて、刷り上がり10ページ以内とする。

和文の場合は要旨和文と英文要旨は必須となる。英文タイトル及び要旨は必ずネイティブチェックを経た完全原稿とする。

３．その他、書式の詳細について

（１）ワードの書式

原稿の種別および字数について、本文のフォントとポイントは要旨に準ずる。MS明朝9ポイント。書式はこのWordを上書きすれば容易となる。このWordの書式設定は、A4横書き、余白は上下左右各25mmとし、本文から段数2、行数42、行送り16.55pt、ヘッダー15mm、フッター17.5mm、頁番号は奇数/偶数頁別指定となっている。

要旨は800字以内、MS明朝9ポイント。数字と英字が半角の場合はTimes New RomanとまたはCenturyとするが、ハイフンを含む場合はTimes New Romanが望ましい。Centuryの場合はハイフンがElectronic-Keyboardとなりハイフンが中心より上部になる。Times New Romanの場合はハイフンがElectronic-Keyboardとなりハイフンが中心となるためである。なお、数字と英字が全角の場合はMS明朝体とする。

タイトルまたはサブタイトルと姓名の間は一行空ける。要旨の枠と本文の間は目視で一行分程度空ける。

（２）タイトルと項目の書式

タイトルはMSゴシック20ポイント、サブタイトルがある場合はMSゴシック12ポイントとしサブタイトルの前後を「―」とする。「―」の文字変換方法は「ダッシュ」。姓名は空白を入れないが姓が一文字の際は姓名の間に半角空白を入れる。行は右詰めとし、筆者が複数の場合は全角空白で区切る。

項目は大項目、中項目、小項目ともMSゴシック、9ポイントとする。大項目に移る際は一行空ける。

このテンプレートに上書きする形で書くと、字の大きさや書体、余白、行数等規定と同じになります。

（３）脚注の書式

脚注は8ポイントとする。その頁の最後に記し、脚注番号書式は統一し連番とする。脚注のレイアウトは1段とすることを奨励する。

（４）参考文献の書式

参考文献の書式は問わないが、統一して表記する。論文の場合は、著者、題名、冊子名、号数、巻数(ある場合のみ)、発行年、掲載頁の始めと終わりを含める。書籍の場合は、出版社名を含める。Webサイトの場合は、最終閲覧日を「2018年12月1日参照」のように記す。本文の後に一行空白行を入れ、1段組で記す。Webサイトのアドレスは複数行にならないのが望ましい。参考文献の書式について一例を示す。

（５）要旨英文について

入稿〆切8月末日において、英文は必ずネイティブチェックを経た完全原稿とする。フォントは半角とし、Times New RomanまたはCenturyとするが、ハイフンを含む場合は印刷上Times New Romanが望ましい。J-STAGEに掲載される際はテキストコピーとなるため、特殊な文字を使用しないことを推奨する。J-STAGEでは「―」は表示されない。

参考文献

田中 功一, 小倉 隆一郎, 鈴木 泰山, & 辻 靖彦. (2018). ピアノ学習プロセスの表出化と変容 ―SCATによる初学者の振り返り記述の質的分析―. 電子キーボード音楽研究, 12, pp.4-16.

 [Summary]

To Select and to Create

―Arrangement and Composition with prepared sets of musical materials―

MORIMATSU, Keiko

 Electronic organs loaded an automatic accompaniment function in 1970s. This new function acted as an assistant player, as an assistant composer nowadays, like some applications for desktop music.

Key words:

（ご職業名や所属　せい　めい）